

**第14回 出雲地区合併協議会
会 議 録**

**未来と古代が響き合う
日本のふるさと出雲の國づくり**

日 時：平成15年12月26日（金）10時00分

場 所：出雲交流会館 2F 多目的室

1 会議の名称等

| | | | | | | |
|---------|------------------------------|-----|-------|--------------|-------|---|
| 会議名 | 第14回出雲地区合併協議会 | | | | | |
| 開催日時 | 平成15年12月26日(金) 10時00分~10時41分 | | | | | |
| 開催場所 | 出雲交流会館 2F 多目的室 | | | | | |
| 出席状況 | 委員総数 | 41名 | 出席委員数 | 39名 | 会議の成否 | 成 |
| 会議録署名委員 | 石飛 三津男委員(湖陵町) | | | 室家 隆一委員(大社町) | | |

2 会議の出席者

(1) 役員・委員

| 役員 | 会長 | 副会長 | 副会長 | 学識経験者 | | |
|------|-------|------|-------|---|-------|-------|
| | 西尾理弘 | 田中和彦 | 常松吉幸 | | | |
| 所属 | 市長・町長 | 議長 | 議員 | 学識経験者 | | |
| 出雲市 | | 三上辰男 | 寺田昌弘 | 江田小鷹 | 萬代宣雄 | 西田郁郎 |
| 平田市 | 長岡秀人 | | 日野恵行 | 原田清造 | 熊谷美和子 | 飯塚俊之 |
| 斐川町 | 本田恭一 | 安食 勲 | 黒田 充 | 岡千代延 | 杉原章子 | (欠席) |
| 佐田町 | 荒木 孝 | 深井徹郎 | 山本京太郎 | 渡部良治 | 飯塚 勉 | 三島多喜子 |
| 多伎町 | 伊藤 裕 | 柳樂和利 | 坂根 守 | 石飛 正 | 石飛エミ子 | 石飛 尠 |
| 湖陵町 | 桑原壽之 | 立花・也 | 石飛三津男 | 柳樂和夫 | 三原伸治 | 中尾 陽 |
| 大社町 | | (欠席) | 濱崎 勇 | 室家隆一 | 木村樞江 | 岩石秀一 |
| 共通委員 | | | | 吉原弘次 [島根県出雲総務事務所長] 田嶋義介 [島根県立大学総合政策学部教授] | | |

欠席：原 俊雄委員(斐川町) 佐貫吉孝委員(大社町)

(2) 幹事会

| 所属 | 助 役 |
|-----|------------|
| 出雲市 | 野津邦男(幹事長) |
| 平田市 | 加田幹男(副幹事長) |
| 斐川町 | 古川君和 |
| 佐田町 | 田中雄治 |
| 多伎町 | 石飛友治 |
| 湖陵町 | 山根貞守 |
| 大社町 | 藤原博志(副幹事長) |

(3) 各市町合併担当部課長

| 所属 | 氏 名 | 職 名 |
|-----|------|--------------------|
| 出雲市 | 黒目俊策 | 出雲市総務部長 |
| " | 山田俊司 | 出雲市合併推進課長 |
| 平田市 | 荒木 隆 | 平田市総務部長 |
| " | 松田隆昭 | 平田市総務課長 |
| " | 川瀬 新 | 平田市総務課合併推進室長 |
| 斐川町 | 富岡俊夫 | 斐川町参事 |
| " | 高田茂明 | 斐川町ふるさとデザイン課合併推進室長 |
| 佐田町 | 大谷昌武 | 佐田町合併対策室長 |
| 多伎町 | 森脇悦朗 | 多伎町地域振興課長 |
| 湖陵町 | 森山 均 | 湖陵町総務課長 |

| 所 属 | 氏 名 | 職 名 |
|-----|------|-----------|
| 大社町 | 影山雅夫 | 大社町広域振興課長 |

(4) 事務局職員

| 役 職 | 氏 名 | 所 属 | 備 考 |
|-------|------|----------|------------------|
| 事務局長 | 妹尾克彦 | 出雲市 | 総括 |
| 参 与 | 柴田政樹 | 島根県総務事務所 | 専門的助言・調整 |
| 事務局次長 | 坂本純夫 | 平田市 | 総務班・計画班担当 |
| 事務局次長 | 石田 武 | 大社町 | 調整1班・2班・3班担当 |
| 総務班 | 班長 | 三浦俊明 | 庶務・広報、会議運営 |
| | 班員 | 長廻修一 | |
| 計画班 | 班員 | 妹尾淳也 | 新市建設計画・財政計画関係 |
| | 班員 | 松浦健一郎 | |
| 調整1班 | 班長 | 今岡範夫 | 総務・企画、財政、議会、消防関係 |
| | 班員 | 林 辰昭 | |
| | 班員 | 金築教治 | |
| 調整2班 | 班長 | 山本 積 | 住民・福祉、教育・文化関係 |
| | 班員 | 原 康正 | |
| 調整3班 | 班長 | 糸賀敬吉 | 産業、建設・上下水道関係 |

3 議題

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 出雲地区合併協議会委員の変更について
- 4 会議録署名委員の指名について
- 5 議事
 - (1) 報告事項
 - 報告第57号 出雲地区合併協議会からの離脱の申し入れについて
 - 報告第58号 出雲地区合併協議会の廃止について
- 6 閉 会

4 議事の要旨

別添資料及び次のとおり。

1 開会

[柴田参与](司会・進行)

ご案内の時間がまいりました。
 ただいまから第14回出雲地区合併協議会を開会いたします。
 はじめに会長からご挨拶申し上げます。

2 会長あいさつ

[西尾会長]

おはようございます。

この平成15年、2003年もいよいよ大詰めでございます。昨年末から開いて参りました合併協議会は、この度、2市5町による新市建設計画あるいは協定項目が整ったところでの平田市・斐川町の住民投票を受けての、最終的な枠組みの確認の段階に入っているところでございます。この協議会は、こういう形では最後になろうかと思いますが、みなさま方の何分のご協力をよろしくお願い申し上げまして、私の開会のあいさつとさせていただきます。

3 出雲地区合併協議会委員の変更について

[柴田参与]

ありがとうございました。

続きまして次第の3、出雲地区合併協議会委員の変更についてでございます。大社町の方で委員の変更がございました。資料2ページに載せておりますので、ご覧いただきたいと思っております。

ここからの会議の進行は、西尾会長にお願いいたします。

4 会議録署名委員の指名について

[西尾議長]

それでは、まず会議録署名委員のお願いでございます。

指名の取り決めによりまして、本日は、湖陵町議会選出の石飛三津男委員と大社町の学識経験委員の室家隆一委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、ただ今から議事に入ります。

5 議事

(1) 報告事項

報告第57号 出雲地区合併協議会からの離脱の申し入れについて

報告第58号 出雲地区合併協議会の廃止について

[西尾議長]

まず、報告第57号 出雲地区合併協議会からの離脱の申し入れについて報告いたします。お手元の資料5ページをご覧いただきたいと思っております。

平成15年12月15日付けで、別紙のとおり出雲地区合併協議会からの離脱について、先日斐川町の本田町長(委員)から会長である私の方に申し入れがあったわけでございます。これを報告いたします。中身については、7ページに添付しているとおりでありますので、ご覧いただきたいと思っております。

この報告があったことに伴いまして、せっかくこの合併協議会にお揃いでございますので、本田委員からごあいさつをいただけますか。

[本田委員]

斐川の委員を代表いたしまして、私の方から報告並びにお詫び、お願いをさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

思えば1年前に出雲地区の合併協議会に参加しまして、2市5町での新市を夢見ながら1年間回を重ねてきたところでございます。昨年の斐川町議会でも申し上げましたが、斐川町においては色々な意見がございました。なかなかスムーズには行かないな、と覚悟はしていたものの、新市の建設計画が決まってから住民説明会を終え、その後、アンケート若しくは住民投票によって町民の意思を確認したうえで、再度町としての態度を

決定するということを言って参りました。そして、今年になって新市建設計画が決まりまして、住民説明会を行い、町としては住民投票によって町民の意思を確認することに決定したところでございます。

その決定によりまして12月7日に投票を行いましたところ、投票資格がございます方のうち、71.45%のみなさま方に投票いただきました。その結果、「合併に反対」という意見が多数を占めたところから、町といたしましては、出雲地区合併協議会から離脱することを決めたところでございます。

当初、それを踏まえて私どもは、慎重にもう一度協議したいと思っておりましたが、周辺市町のみなさまに大変迷惑をかけてはいけないということから、12月12日に全員協議会を開きましてその旨を伝え、15日の議会開会の冒頭で正式にその表明をしたところでございます。それに基づきまして、今月の15日、当協議会の会長でございます西尾会長に文書でもって斐川町の事情を説明申し上げ、協議会からの離脱のお願いをしたところでございます。この結果に基づきまして、町内の事情とは申せ、2市5町としてこれまで一緒にスクラムを組んでやってきた関係上、離脱するという事は、周辺の市町のみなさま方に多大な迷惑をおかけする結果となりました。この場をお借りしましてお詫びを申し上げますところでございます。

さて、そうとは言え、町そのものが消えるわけではございません。これから自立の道を選んだわけでございますので、周辺のみなさま方とはより一層信頼関係を築き、そして協力をしていかなければならないと考えております。引き続きみなさま方と共に、出雲圏域発展のためにご協力をさせていただきたく覚悟でございますし、また、みなさま方のご協力を心からお願いするものでございます。

2市4町という新しい枠組みでスタートされるやに聞いておりますが、新しい「出雲市」が、立派に、そして島根県の中でも輝くような市になるように、みなさま方のご健闘を心からお祈り申し上げ、報告とお願い、お詫びに替えさせていただきます。長い間本当にありがとうございました。

[西尾議長]

ありがとうございました。

ただ今斐川町の方から、経緯を含めての報告をいただいたわけでございます。

報告事項ではございますが、この際ご発言がございましたらお願いします。

～意見なし～

それでは、報告第58号に移らせていただきたいと思います。事務局から報告願います。

[妹尾局長]

～報告第58号について説明～

[西尾議長]

ありがとうございました。

この2市5町での合併協議会を終了するという事についてご確認いただくと共に、これを正式に発効し、確認するためには構成各市町の議会で廃止議案を提案していただき、議決していただくという手続きが必要でございます。聞くところによりますと、本日午後には関係市町議会で議決される予定であると聞いておりますし、出雲市でも議会のみなさまとの協議の中で、29日に議決される予定であると承っているところでございます。これらをもって12月31日に廃止ということで、追って県の方へ報告するという事になるわけでございます。電算統合につきましても斐川町が離脱されるということで、追って議会でも確認していただきたいと思うわけでございます。

私の立場から申し上げますのは以上でございますが、何かこの手続き等についてご質問等がございましたらお願いします。

～意見なし～

それでは無い様でございますので、報告第58号は終えさせていただきます。

[萬代委員]

その他でお願いします。

結果が出たうえで、今更斐川町の方にどうこう言いたくない思いもするわけですが、正式な会議も済んだ後ですので、1つだけ町長さんなり議長さんに伺いたいと思います。

長年かけて議論して参ったわけですが、その中で、少なからず町長さんなり議長さんとも長いつきあいをさせていただいております、色々な意見はあっても、やはり2市5町は一緒にやらないといけないう思いを、個人的な話も含めて言っていたいております。住民投票の結果、多少反対が多くてもそれは自分たちの力で話し合いをして2市5町という方向でのまとめをやられるのだな、という思いで私は信じておりました。

ところが、斐川町で単独シミュレーションをお作りになられましたが、私のみならず斐川町の良識ある多くのみなさん方から、これは偏った発想があつてのシミュレーションではないか、という話がありました。私もそんな思いで単独シミュレーションを見たところでございます。そういう中で色々聞いてみますと、言っておられることとされたことが(違っており)既に単独という思いがレールにあつたのではないか、そんな良からぬ憶測をされる種がいくらか表に出てきているという感じで私も見えていますし、話も伺っているところでございます。そういうことは信じたくないわけですが、そういう誤解を招くような行動があつたということであるとすれば、私は裏切られたという思いがしています。

このようなことをみなさまの前で言うつもりはありませんでしたが、ここに座っていて何かムカムカとした部分がありましたので。そういうことでなかつたのであれば「そうではなかつた」とははっきり言えることではないかもしれませんが、流れを見てみますと、そういうことを斐川町の方なりあるいは出雲市のみなさま方から聞くにつけ、信じたくないわけではございますが、現実そういうことがあつたと思われても仕方のないことがあつたということは、私は、信頼関係に溝が出来たのではないかと考えているところでございます。私の思いとしては、今回の問題が残念だつたということと同時に、先ほど町長の方からは、そうは言っても斐川町が消えるわけではないということでした。全くそのとおりでございます。仲良くやらなければいけないことは論を待たないわけではございますが、そういうやり方を今後されるようなことがあつたならば、本当に感情的な問題が更に深まるという感じがするわけではございまして、私の誤解なり斐川町の有識者のみなさま方の誤解であれば幸いです。かなりのみなさんがそういう思いでいるということだけは、一言申し上げたくてマイクを取つたということでございます。

大変失礼なことではございますが、私の思いの一部を申し上げて、本当に残念だつたということを重ねてお話し申し上げながら、同じ地域に住むことではございますので、今後は表裏一体となつた信頼関係を構築していかないと地域の発展はないという思いを強くしているところでございまして、私の誤解であれば、そのような反論もいただければと思うわけではございます。

【西尾議長】

それでは本田委員、ご意見がありますか。

【本田委員】

ここで私がどうこう申し上げましても、かえつて難しい問題になると思っております。結果は結果として厳粛に受け止めなければいけないと思っております。それよりもむしろ、どこでまたご縁があるか分からないと私自身は思っているところでございます。この先道州制といった問題もあろうかと思ひますし、この地域がいつまでも仲良くスクラムを組んでいくことが、出雲圏域の発展につながると確信しているところでございます。ここで感情問題を出して、ああだこうだと言つても、この地域にとってプラスにならないと思っております。斐川町がこういう形で決めた以上は、私たちはこれからその道を進んでいかなければならない、また、大きな試練でもございます。そのためには、周辺のみなさま方のご理解とご協力なくしては出来ないと考えておりますし、地域の一員としてこの地域の発展のために尽くして参りたいと考えているところでございます。過去についてあれこれ言つても、結果が出た以上はどうしようもないことではございますので、どう言い訳をしても出来ないことでございます。私は、過去を振り返らず、結果を重く受け止めて町政を進めていきたいと考えておりますし、より一層みなさま方との信頼関係が崩れることのないように、地域住民のみなさまがお困りにならないように最大限の努力をしていかなければならないと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

〔西尾議長〕

どうもありがとうございました。

〔荒木委員〕

その他事項ということでの萬代委員のご意見、また、本田委員のご発言でした。私も今回の結果につきまして、随分長らく時間をかけ、この法定協のみなさま方をはじめ住民のみなさま方が一緒になって新市を建設していくという思いの中で、たくさんの方々、また、たくさんエネルギーを使いながら今日に至ったということは間違いないということであります。結果として残念な思いはいたしますが、斐川町さんのご決断も選択肢の1つとしてあるわけですから、それについて私は異存はない訳であります。これから斐川町さんにはしっかりと足を踏ん張ってがんばって欲しいな、とエールを送っておきたいと思えます。

ただ、法定協のこの責任ある委員として、協議会として責任を持って住民の期待を双肩に重みを感じながら今日組み立ててきたにも関わらず、先ほど萬代委員からお話がありましたように、斐川町の住民投票につきましては、私どもはどうこう言いません。これは、手法として平田市さんも行われましたので、これについてはコメントを差し控えたいと思えます。民主的な手法だと思えます。ただ、経過を見ますときに、残念ながら色々な情報提供があったわけでありますが、斐川町の委員でいらっしやいます安食委員・黒田委員の、まさに法定協を逆手に取った行為、こうした行為は、私は、人として、人の道として信義にもとる行為であったと言わざるを得ないと思えます。そういう意味で、この法定協の責任、また、これに期待をする2市1郡の住民のみなさま方の思いが何故こんなことになったのか、委員として本当に自分の使命を果たされたのかどうか、私は真意を聞きたいと思えます。まさに今回の住民投票におけるみなさま方の行為は、信義にもとる行為であったと言わざるを得ません。これから信頼関係を築いていくとおっしゃっても、なかなかそうはいかないだろうな、と思えます。人間は生身であります。ましてや私どもは、行政責任のトップであります。トップとしての責任、あるいは、今回のこの法定協でたくさんの方々が努力をされた中からのそうした行為については、人の道として信義にもとる行為であったと思えます。これについては、まさに残念至極でありました。

そうではございますが、結果はもう出したということでございますので、私ども佐田町といたしましても、佐田町の委員としましても、これから一緒になってご相談をし、今後のあり方を決定していきたいと思っております。

終わりにになりましたが、本当に会長をはじめ委員のみなさま方、本当にご苦労様でした。明日からまた気持ちを切り替えて、いいまちづくりをしっかりとやっていきたいと思う次第であります。一言お話しさせていただきまして、私の所感なり、委員のみなさま方の労をねぎらいたいと思う次第であります。ありがとうございました。

〔西尾議長〕

どうもすいませんでした。

その他のご発言はよろしゅうございますか。

〔濱崎委員〕

ただ今お二方のご意見がございましたが、私も同感でございます。特に萬代委員さんとは、4年前の平成12年1月に、各市町議会で特別委員会を作って一緒にやろうということで努力して参った関係もでございます。あれから4年過ぎた訳でございます。従って、こういう結果になったことは、大変残念であるという思いは、本当に同じ気持ちでいるところでございます。

そこで、この次がどういう形になるのかは分かりませんが、やはり、各市町の議会と執行部がきちんとした考え方をスタートしないと、再びこういったことを繰り返すのではないかと心配するわけでございます。各市町で、2市4町でこうだ、というしっかりとした考え方を持たずに、途中で色々なことが出てきたりしてバラバラになるということではなく、各市町の議会の意見、執行部との共同意見がはっきりしていないとスタートしてはいけないのではないかと気がしているわけでございます。このことをお願いしておきたいと思えます。

なお、お二方がおっしゃいましたので屋上屋を重ねても悪いのですが、新聞等のマスコミにそういったことが早く出て、例えば、私も今議会において、議会のみなさま、あるいは町民のみなさまに説明するという形で申し上げましたが、新聞紙上に出ておりますように、斐川町の方では、自分たちの言ったことが通らなかった

ということでした。しかし、我々は、小委員会や法定協で「あなた方の言うことはどうだ」というようなことを言った場面はなかったような気がして、「斐川町の意見はこうなんだ」と、最後まで言っていたいで、結果として法定協で決まったことは、誰もが一応相互に理解をしたということを決まっていたと思います。特に議会制度については色々意見が分かれました。あの頃から大変雲行きが怪しくなったという感じを持っているわけでありませう。

長く申し上げましても時間ばかり経ちますので、どうか次の法定協を立ち上げるときには、各市町がしっかりとした考え方を、途中でぐらぐらしにならないような考え方を進んでいただきたいと思うわけでありませう。ありがとうございました。

〔西尾議長〕

どうもご苦労様でした。

〔伊藤委員〕

先刻斐川町長からもごあいさつがあったわけであり、私はその言葉を信じていきたい、今日までも信じてきましたが、結果は残念な結果となりました。

そこで、斐川町長に一言提言をしたいと思ひます。私共も今後自戒していかなければいけないことの1つとして、「過去を振り返らないで、今後を見据えていきます」ということは、誠に前進前進あるのみでいいようであり、この法定協における、あるいは合併協議における過去を省みないということまで総括しておっしゃったとすると、私は残念の極みです。と申しますのは、具体的ことは表現を割愛しますが、要は、合併して一体性を欠くようなことはよろしくないということをおっしゃったのは本田町長でありました。私は、当事者としての説明はいたしました、反論をせずに収めました。しかし、(斐川町では)結果は一体性を欠く言動、まさに言葉だけではなく行為をされる結果となりました。そのことを省みないとおっしゃるとすると、「広域で今後も一緒になってやっていかなければならない地域にありながら、本当にいいんですか」ということをお伺いしたいような疑念が残りました。誠に残念です。このことを一言申し述べて、今もお話がありますように、今後2市4町になりましても、斐川町を含むこの地域は、一体性をもっていくべき事項が一杯あるはずであり、それらに齟齬を来たさないように、ひびが入らないように、一緒に行ける振り返るべき過去はしっかりと振り返って、確かめ合って、前進できるようにしたいということをお提言しておきます。

〔本田委員〕

伊藤委員さんのご発言についてですが、説明・言葉が足りなかったことをまずお詫び申し上げたいと思ひます。

私が過去を振り返らないと申し上げたのは、町内で色々な感情問題等があり、町内のことを指して言ったところでありませう。そうしたものをいつまでも引きずってはいけ、我が町にとっては不幸であるということであり、予めご了承いただきたいということと同時に、私は、この数年間ではございませうが、積み上げてきたこと、色々議論してきたことは、決して無駄にしたいと思ひておひます。それについては、町内でもはっきり私は公の場で申し上げておひます。こうしたことを踏まえながら、活かしながら、これからのまちづくりをしていかなければいけないということであり、勿論そのとおりでありませう。過去を振り返らないと申したのはそういう意味でありませう、ご理解いただきたいと思ひておひます。

むしろ、逆にみなさま方に迷惑をかけることになったことについてお詫び申し上げ、この1年間ではございませうが、色々新市の構想を夢見て議論したこと、斐川町が単独町制を採っても、この地域の将来像は決して変わるものではないと思ひているところでありませう。もう1つ付け加えて申し上げますれば、議論を重ねてきました新市の構想の形態は全く変わっていかないだろうと思ひておひます。この地域で、斐川町が外れたからといって新市の理念は全く変わるものではないと考えておひます。共々に協力し合っていかなければならない、そうした面において斐川町は、みなさんにより一層のご理解とご指導とご協力をいただかないといけ、ないと思ひておひますので、今後も引き続きよろしくお願ひいたします。

〔西尾議長〕

色々ありがとうございました。

6 閉会

〔柴田参与〕

それでは、西尾会長から閉会にあたりましてごあいさつをいただきたいと思います。

〔西尾会長〕

この法定協は今月末で終わるわけでございます。まさに万感胸に迫るものがございます。

私自身も、構成市町の市長・町長さん方も、そしてここにお集まりの44人の委員のみなさま方も、後ろに控えております合併協議会事務局の職員も、夜に日を接いで、涙と汗の中で足掛け3年間やってきました。つごう80回、私も本当に全てを尽くしました。岡委員さんと法定協で議論し合ったことがまざまざと蘇るような心境でございます。

この度の法定協で決めたことは厳粛なる合意事項です。「必ずやるんだ」という決意で臨んだわけですが、斐川町における住民のみなさまの選択は、これもまた事実でございます。本当に残念でございますが、こうなった以上、我々は、日本国の地域共同体としてそれぞれの置かれた道で肅々と堂々と更に前進という以外にないと思うわけでございます。

既にご承知のとおりと思いますが、来年度の国の予算を見ましても、地方交付税は6.5%の減です。臨時対策債で行うにしても、これもなかなか難しいものがあります。そして、地方単独公共事業、投資は9.5%の減です。まさにこの予告が既に総務省から参っているわけでございます。「団結すれば立ち上がる、分裂すれば倒れる」ということで、この日、このごとく、我々は切磋琢磨してお互いががんばっていかねばならないことでございます。斐川町におかれては、自らの道を歩むということでございますが、厳しい道ではございますが、がんばっていただかなければならないと思います。また、「2市4町」の空気があるということ、市長・町長さん方、みなさま方も念頭に置かれまして、今後の舞台をまたよろしくお願い申し上げるわけでございます。

地域があって国があるのであり、国があって地域があるのではありません。「中国州」という話も昨日今日の新聞に出ておりますけれども、この「出雲圏」「松江圏」といった都市圏域は、島根県が消えてもこれだけは永遠に残るものでございます。そして、この形が永遠とは申しません。間違いなく更なる段階があるわけでございます。そういうことも将来の展望として持ちながら足元を固めていくということなのです。

そして、「2市4町」の立ち上がりについても、市長・町長間では「2月には」という合意も取れているところでございますが、関係市町における議会のみなさま方、住民のみなさま方のご理解・ご了解を得て、そういう方向になればと願って止みません。この度立ち上がれば、これは永久に決定だとお互いに確認し合いながら、足場がぐらつかないようにしっかりと今度こそがんばっていくということをそれぞれ誓い合っていきたいと思っております。

本当に委員のみなさま方、小委員会を含めて面倒をかけました。ありがとうございました。斐川町のみなさま方の今後のご努力には厳しいものがあると思います。また、事務局のみなさん本当にありがとうございました。それでは、以上で私からのこの歴史的な2市5町の合併協議会の閉会にあたってのあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

以上